

投資事業評価調書（新規）

部課室名	農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	農地整備課長 松浦 猛 (太野垣 賢治)	内線	4003  (4016)
------	-------	---------------------	----------------------------	----	--------------------

事業種目	ほ場整備	事業名	事業区間	総事業費	約3億円
		基盤整備促進事業 (農地等高度利用 促進事業・担い手育 成型)	戸島地区	内用地補償費	-
所在地			事業採択 予定年度	着工予定 年度	完成予定 年度
城崎郡城崎町戸島地内			H16	H16	H20
事業の目的			事業内容		
土地利用型農業のコスト低減、経営の安定強化を図るため、農地の区画形質及び道水路を整備し、機械化営農体系を確立するとともに集落営農組織への土地集積を促進する。 事業主体：城崎町			区画整理 13.5ha 関連事業 国土交通省 ひのそ島掘削事業 (国55% 県21% 町11% 地元13%)		
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性	本地区は、円山川下流沿いに位置し、全体標高が低く常時農地が湛水するため、強制排水を行っている区域であり、営農効率が悪く、農業従事者にとって多大な労力が大きな負担となっている。また転作作物も作付けが困難な状況である。 このような中、国土交通省の河川工事で発生する残土受入れと併せたほ場整備事業の実施により、農地の乾田化を図り、機械化や水管理の合理化を促進する。 また担い手（法人化を目指した集落営農組織）を育成することにより、地域の農業従事者の確保と転作作物を含めた作物の規模拡大を図り、農業生産性の向上と経営の安定を確保する必要がある。				
(2)有効性・効率性	国土交通省の河川工事で発生する残土27万m <sup>3</sup> （全体34万m <sup>3</sup> ）を受け入れ、農地全体を嵩上げた基盤整備を行うことで、洪水による被害防止効果が見込まれると同時に農地の乾田化が容易となり、これまで取り組むことが困難であった転作作物の導入と大幅な農作業効率の向上が図られる。 費用便益費B/C = 1.04、所得償還率 22.8% 同意率 100.0%				
(3)環境適合性	現況については、湛水かつ汽水域でもあるため、野鳥など動植物の生息空間となっている。本地区では、その自然環境を活かした環境配慮ゾーンの設置を行う。 (3箇所・1,230m <sup>2</sup> ) (1)水生植物園ゾーン…現況の希少植物（ミズアオイ・兵庫県版レッドデータA種）を保護区域に移植する。 (2)水鳥休憩ゾーン…現在見られる渡り鳥（カモ・サギ）の休憩区域を設置する。 (3)親水ゾーン…地域住民等が、水に親しめるよう水辺区域を設置する。 道路路盤材については、再生砕石等を積極的に利用する。				
(4)優先性	国土交通省が実施する「ひのそ島掘削事業（H14～H18）」と関連しており、そのスケジュールと合わせて残土の受入れを行う必要がある。				